

2014/09/01

夏休みミニソーラーカー工作教室 反省会報告書

開催日時 2014年8月26日(火) 13:30~15:30
場所 ヒストリア宇部 第1交流ホール
出席者 講師・指導員
溝田忠人、松重泰夫、近藤幸海、上田純二、亀田修、田中護、平泉恵子
事務局
仰木則康事務局長、木原裕子、松井民男

内容

1. 仰木事務局長挨拶
2. 工作教室報告書、アンケート結果について(松井)
3. 反省会
 - 教室の人数・班分け
 - ・昨年と同じ6班で1班4人は良かった。(去年は5名)
 - 話(第1部)
 - (ア)話の途中、眠そうな子どもがいた。午後は午前の疲れがでるかも
 - (イ)集中力は午前中のほうが高い
 - (ウ)説明する先生をカメラでプロジェクターに大映しする。
 - (エ)プロジェクターは背中を向いた子供に見えない。
 - (オ)グループ毎に配られた、絵入りの手順書は参考になりやり易かった。
 - (カ)部品に番号をつける。手間が掛かるが
 - (キ)子どもに難しい言葉があった。子どもに分かる易しい言葉で話さないと子どもはついてこない。
 - (ク)3年生以下の子どもへの話し方は難しい。
 - (ケ)子どもへの話し方、経験・訓練がいる。我々の子どもの頃と違う。子どもの中の知識の差が大きい。
 - (コ)小学校の先生にアドバイスをうける。
 - (ク)アドバイスを受けることは可能、ただし先生にも上手、下手がある。
 - 工作(第2部)
 - (シ)アンケートに両面テープを剥がすのが面白いという子どもが大勢いた。
 - (ス)日頃やりたいことをさせてもらえない。自分で何かしてみたい欲求がある。
 - (セ)両面テープは剥がしにくい。
 - (ソ)毛抜きを改造し両面テープを剥がす道具を作った。参考にして(道具を回覧)
 - (タ)最近の子どもは爪のない子が多い。爪を噛む子が多い。
 - (チ)今回は3.4年生が中心で半数が難しかったと答えている。簡単にできるものより、難しさも必要。達成感が大きい。
 - (ツ)体験の面白さを伝えればよい、
 - (テ)出来ないことができるように、やってみせる、やらせて見せる、褒めるのが、体験学習の基本。知識を覚える喜びは子どもにはまだない。

- (h)子どもは、体感の喜びや、できないことが出来たときの喜びが大きい。できたとき褒めることが大切。
- (i)教室では、上手くできたときに褒める時間的な余裕がなかった。
- (j)今年は外で試走して、子どもが喜び、良かった。

○時間

- (k)2時間半は適当か？3時間は長すぎる？
- (l)地球温暖化防止の環境教育が目的なので工作だけというわけにはいかない
- (m)事前の準備がよくできていて、時間的には良かった。
- (n)話と工作を逆にしたら、話の内容がよく理解できる。
- (o)できなかったことを、後で考える時間になる。
- (p)逆にすると、工作物に気がとられ話に集中できない
- (q)話に集中させる方法はある。
- (r)時間の計画を十分にしていなかった。

○班分け

- (s)学年別けではいけないか
- (t)高学年グループと低学年グループで工作時間に差がでて、低学年班に先生を増やす必要
- (u)兄弟や高学年と低学年を組合すことで年長が年少の面倒をみってくれることを期待

○コミュニケーション

- (v)子ども同士のコミュニケーションがない
- (w)子どもに自己紹介してもらおう
- (x)なまえを自分で書いて名札をつける
- (y)名札をつけてもあまり変わらない経験がある
- (z)指導者が点呼や名前を呼んでコミュニケーションをつくる
- (aa)試走時によく走る子どもに話しかけている子どもがいた。
- (ab)試走の時間に、コミュニケーションできる。
- (ac)競争させると盛り上がる。
- (ad)集光器など、早く走る工夫をさせて、競争する。

○これからのテーマ

- (a)ソーラーカーキットは年々進化しているが、子どものためには進化したものと単純なものどどちらが良いのかよく分からない。
- (b)マグネシウム電池車はできない？
- (c)ミニソーラーカークラッチ式はよい。
- (d)うちわで発電できる風力発電機はできない？

4. 感想

工作教室について、様々な面から活発な意見が出され、有意義な反省会でした。次の開催時には、これらの意見を取り入れ、スパイラルアップした工作教室にしたいと思います。

以上（文責：松井）